



がん検診編

『おっぱいはどう写るの？』

～乳がん検診の受け方 その2～

マンモグラフィでは乳腺は白く脂肪は黒く写ります。高齢になるほど、乳腺が減り脂肪が多くなりますので、高齢になるほどマンモ上では黒く写る部分が多くなることとなります。

ここでもうひとつ、がんなどの病気は白くうつります。という事は、黒い部分が多い高齢の方のほうが白い病気を発見しやすくなり、逆に白い部分が多い若い人は発見しにくいこととなります。

よって、乳腺評価は乳腺と脂肪の割合（乳房の構成）を示す＝そのお乳のマンモグラフィにおける病気の検出度合いをしめす事にもなります。

下の写真をご覧ください。前回、お見せした写真に病変に見立てた白い丸を入れてみました。ご覧の通り乳腺の多い白い乳房では発見しにくいですね。

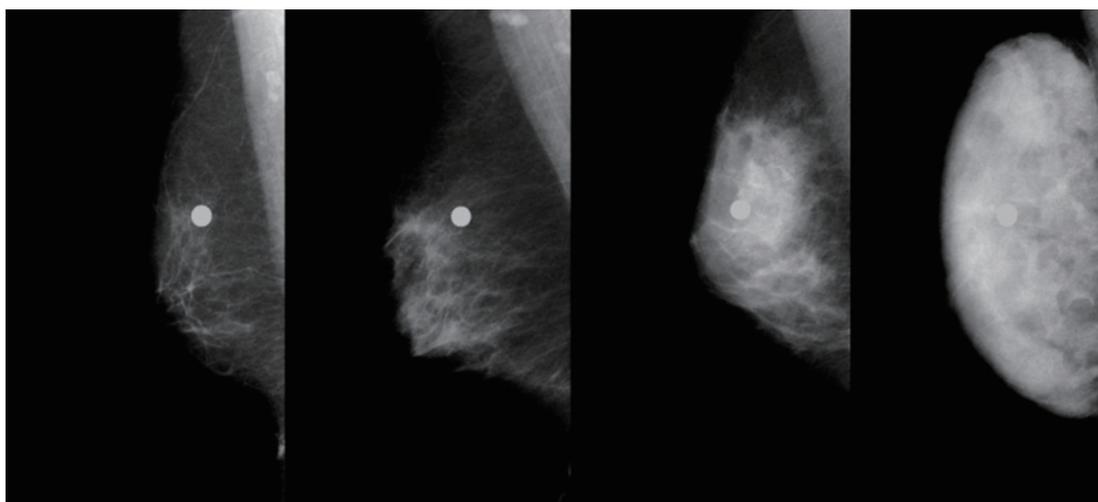


そのため、40代の乳腺の比較的多い人は、病気の見落としを少なくするため2方向の撮影をしています。さらに乳腺の多い30代の方は、乳腺の影響をあまり受けない超音波での検査をおすすめしています。

しかし、乳腺の量には個人差があり、40代の方でも乳腺の少ない方や逆に高齢の方でも乳腺の多い方もおられます。マンモグラフィの結果をごらんになれる時は、この乳腺評価も確認してぜひご自身のお乳に合った検査をお選びください。

最後に、乳がんは自分で発見できる唯一のがんなので自己検診も重要です。年1回のがん検診と月1回の自己検診で乳がんの早期発見を！！

*現在、厚生労働省科学研究班では40歳代を対象に超音波検査の有効性を調べる臨床試験を実施しています（J-STARRAT）。この結果によっては、将来40歳代の検診方法が変わる可能性があります。



乳腺が少ない ←

→ 乳腺が多い